

周囲に意識されなくなり仕事量が増えていくこともある。職場に戻ってから以前の自分との違いに直面してうつ状態に陥るケースもあって、リハビリテーション科でのフォローが一段落ついた頃に今度は精神科の受診が必要となるケースを経験したこともある。

フォローアップは基本的に職場を訪問して本人・上司の双方から職務の遂行状況や人間関係についてのインタビューを行う。そして、今すぐ介入が必要な問題や、今は小さなことでも放置しておくで将来大きな問題に発展しそうなトラブルの芽を早めに摘んでおく。本人を前にして上司としては話しにくいことや、上司を前にして本人が言いにくいこともあるので、必要に応じて別々にインタビューを行う。

フォローアップを行っても最終的に離職に至るケースもあるので、その場合には雇用保険の手続きをして新規に求職するか、福祉的就労など別の進路を取るのかを相談することになる。

施設内訓練における医療・福祉連携

以上述べたような職場復帰調整を始める前に、作業を中心とした施設内でのトレーニングを必要とする場合もある。医療機関においては作業療法や言語療法の場で訓練が行われ、認知リハビリテーションのように高次脳機能障害に特化したリハビリテーションは一定の成果を上げている。しかし、医学的リハビリテーションでは診療報酬制度によってリハビリテーションの時間・頻度・期間が限られる。医療機関が1人の患者に長時間にわたり、密度の濃い職業前訓練を行うことは容易でない²⁾。

しかし、最近では診療報酬制度の制約を離れて訓練を実施する工夫も行われており、職場復帰先の職務内容に近い活動を訓練課題とする作業療法を行いつつ、これに診療報酬制度外に位置づけてある「自主トレーニング」を行って長時間の訓練を確保している報告がある⁶⁾。岡山県では医療と福祉を並行利用する方法を試みている。通院リハビ

リテーションと並行して、地域活動支援センターの日中活動に通所して「リハビリ的」活動を行うことで、診療報酬制度の限界を補う作業活動の場を設けることが実現できる。医療は認知リハビリテーションの方法を福祉側に供給し、福祉は診療報酬制度に縛られない場を医療に提供するという相互活用を行う。医療と福祉とを一定期間並行して利用することで、医療から就労や生活へと、なだらかに支援の軸足を移していくことも期待できる。

おわりに

元の会社に復帰しようとする場合には、新たな求人に応募したり雇用保険を受給するわけではないので、職場復帰調整の過程に労働関係機関が介在しないこともある。はじめに述べたように、高次脳機能障害では医療がサービスの始点になる。医療が一段落したときに、次のサービスに確実に結びつけておく調整が大切である。このとき次のサービスに結びつけることができなければ、患者と家族はその後の相談窓口を知らないまま、社会の中で孤立することになる。このような孤立を防ぐことが、2001年度に開始された高次脳機能障害支援モデル事業の目的のひとつであったことを忘れてはならない。

参考文献

- 1) 山崎文子：医療機関における高次脳機能障害者への就労支援のポイント。臨床作業療法，5：406-407，2008。
(Summary) 高次脳機能障害者の就労支援における作業療法士の役割がまとめられている。
- 2) 遠藤てるほか：脳卒中後片麻痺患者に対する職業前訓練と職場復帰一病院におけるアプローチ。OTジャーナル，25：436-442，1991。
(Summary) 脳卒中患者の職場復帰について、復帰のための条件、作業療法の具体的な内容、職場復帰後の経過、職場復帰できなかった人の特性などが記述してある。また、医療機関として関与できる範囲について言及されている。

- 3) 中途障害者の職場復帰に関する研究会：中途障害者の職場復帰に関する研究会報告(脳血管障害者), p.28, 1996.
〈Summary〉脳血管障害者の職場復帰のための手法として, リハビリ出勤に言及した報告書である.
- 4) 小川 浩：高次脳機能障害に対する社会支援の実際. OT ジャーナル, 40：699-702, 2006.
〈Summary〉高次脳機能障害者の就労支援におけるジョブコーチ活用のポイントが記述されている.
- 5) 田谷勝夫：高次脳機能障害者の雇用促進等に対する支援のあり方に関する研究—ジョブコーチ支援の現状 医療との連携の課題—, 高齢・障害者雇用支援機構, 2007.
〈Summary〉職業リハビリテーションの対象になっている高次脳機能障害者の特性, ジョブコーチ支援の具体的ノウハウの調査, 医療と就労支援の連携の課題などを調査し, 高次脳機能障害者に対する就労支援の現状と課題を総括している.
- 6) 廣瀬陽子ほか：就労支援における医療機関の役割についての一考察. 第17回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, pp.178-181, 2009.
〈Summary〉職場の業務内容に近い作業による訓練を病院内で実施した一連の取り組みについての報告である.

